

## 地理学コース便り（平成 20 年度）

平成 20 年度の地理学コース関係の主な出来事をお知らせします。本誌前号からもわかるとおり、これまで地理学コースを支えてくださった田宮兵衛教授は、本学での 20 年間の勤務を終え、定年退職となりました。地理学コースの中で、独特の軽妙さと逆説がなくなり寂しい思いでいましたが、後任として 7 月より、長谷川（旧姓・石黒）直子准教授を迎えることができ、自然地理学の研究・教育を引き続き本学で行える体制となりました。長谷川先生は、フランス留学をはさんで、本学の学部・大学院の卒業生であり、また地理学関連の専任教員としては 3 人目の女性教員（他には、栗原、石塚）として、学生たちの期待と信頼を集めつつあります（ちなみに、男性教員は、熊谷、水野、宮澤）。これほど高い女性教員比率を有する地理学教室は、全国でもまず例がなく、こうした貴重な教育・研究の場を生かした、新しいタイプの女性地理学者の誕生を期待しています。

今年度の非常勤講師では、中川晋一（情報社会の安全保障）、吉岡由希子（情報処理演習）、鈴木智恵子（情報処理演習）、片岡久美（情報処理演習）、齋藤元子（地理学英書講読）、西律子（地理学フィールドワーク B）、阿部隆（地図学）、寄藤昂（地理情報学基礎演習）、小山昌矩（日本地誌）、矢部直人（地理情報システム演習 II）、柴山明寛（自然環境論特殊講義）、菊地俊夫（地理学特殊講義 I）、堤研二（院・環境認識論）、佐々木善子（社会科教育法）、菊地美千世、石出みどり（地歴科教育法）の各先生のご協力を得て、地理学コースのカリキュラムを充実させることができました。講師の先生方には、この場を借りて感謝いたします。

地理学助手室の事務を担当するアカデミック・アシスタント（AA）は、今年度も OG の倉本さん、沼畑さんが担当し、学生たちの良き相談相手にも

なっております。またお茶の水地理学会事務局の須野原さんも、ときどき助手室で仕事をされ、学会のアルバイトや先輩紹介などで、在校生に貴重なアドバイスをくださっています。また 5 月 31 日の開学記念日は「ホームカミングデー」ともなり、今年度よりお茶の水地理学会の総会・大会も同日に行い、多くの元教員、OG が来学されました。

地理学コースの財産として、この場で何度かお伝えしてきた外邦図コレクション（704 室に所蔵）は、宮澤先生の努力によって、学内特別研究費を受けて、本学図書館のホームページ上に外邦図の一部（兵要地誌図）を電子版貴重資料として公開することができました。閲覧時の動作が大変軽く、このコレクションの一端を身近に知ることができます（[http://www.lib.ocha.ac.jp/GAIHOZU\\_Web/Index.html](http://www.lib.ocha.ac.jp/GAIHOZU_Web/Index.html)）。

研究費助成ということでは、引き続き特別教育研究経費「コミュニケーション・システムの開発によるリスク社会への対応」（略称 CSD）に、地理学コースから水野、宮澤が参加し、ここに卒業生、在籍院生を加えて、情報のインフラ整備と共同研究を進め、論文として発表されつつあります。また、この CSD の教育プロジェクトの一つとして GIS 技術補佐の業務を行い、非常勤講師の矢部直人先生には、論文作成中の大学院生や卒論生に、地図描画・分析の個別指導を毎週、行っていただきました。CSD の活動および成果は、地理学コースのホームページから、閲覧することができます。

地理学教室の学生数は、平成 20 年度では、学部 4 年 14 名、3 年 7 名、2 年 4 名、大学院博士前期課程 2 年 3 名（うち留学生 1 名）、1 年 3 名、博士後期課程は 7 名（うち留学生 2 名）在籍して

います。学部4年生、修士2年生のほぼ全員が卒業、修了となり、未曾有の経済状況の中でも、それぞれ希望の分野に進学・就職を決めています。学部地理学コースの学生数は減少傾向にありましたが、幸いにも来年度の2年進学者数は6名となり、さらに転学部、3年次編入の学生も加わって、若干の人気V字回復を見せています。なおグローバル文化学環が今年度で始めて卒業生を出し、その卒業研究の中には、石塚、熊谷両先生の指導する地理学の研究が多々あり、その学生たちもお茶の水地理学会のメンバーにと考えています。博士前期課程では、この原稿を書いている時点では不確定とはいえ、新年度の院生が少し増えそうです。昨年度、本学の課程博士の学位を取得した大浦瑞代さんは、CSDのアソシエイト・フェローに採用され、公開講座や研究会の仕事だけでなく、地理学コースの一日巡検も担当しました。今年度の博士学位取得見込みは、課程博士1本で、昨年度よりはだいぶ少なくなりました。今年度の人間文化創成科学研究所の연구원には、西律子、永田玲奈の2名が在籍し、地理学教室のさまざまな演習、合同ゼミなどで、学生指導に協力していただきました。

今年度は、本学地理学科の43回卒業生である楊逸さんが芥川賞をめでたく受賞し、全学の講演会が盛大に開かれました。また、学部3年生の渡邊享子さんが、三菱UFJリサーチ&コンサルティング主催第2回懸賞論文「地域ルネッサンスの処方箋：地域活性化のために何をすべきか」で入賞しました。なお本学地理学教室の教員、院生の最近の研究成果については、地理学コースのホームページをご覧ください。

2008年度の巡検一覧は、末尾に示した通りです。なお、今年度の夏の巡検の概要については、次のWebサイト (<http://www.li.ocha.ac.jp/hum/chiriog/chiri.htm> の「メニュー」から「フィールドワーク」をクリック) をご覧下さい。今年度の夏の巡検では、学部生8名、院生3名、教員2名の

計13名が参加し、長崎市とその周辺地域(島嶼部、半島部を含む)において、歴史、観光、福祉、街づくり、宗教、景観など、それぞれの参加者の関心に沿った個別テーマで調査を行いました。

最後になりましたが、本号も前号に引き続き、現役研究者であるOG有志を中心とした編集委員会によって、編集全般の仕事を担当していただきました。編集委員のOG諸氏に対し、この雑誌の編集を通じて本学地理学教室に応援をしてくださり、本当にありがとうございます。卒業生の皆様のさらなる活躍を期待し、本学地理学教室を新たな雰囲気教育、研究の場とするべく、これからも努力していきます。

(2009年1月記/コース主任 水野 勲)

#### [2008年度巡検一覧]

(\*はグローバル文化学環との相互乗り入れで実施)

- 5月17日 お茶大近辺の台地と低地(水野)
- 6月7日 大久保(熊谷)\*
- 6月15日 古をたどる:神楽坂(大浦)
- 7月19日 東京オリンピックと都市計画:  
代々木(西)
- 9月15日~19日 大巡検:長崎(宮澤・水野)
- 10月25日 多摩ニュータウン(宮澤)
- 11月16日 山谷・新宿(石塚)\*
- 12月23日 フライス工場:  
ものづくりの現場(石塚)\*
- 1月29,30日 高尾山気象観測(長谷川)